

令和6年度 学校経営方針

～子供が主語になる学校 壊して創る新曽小学校のあたり前～
【脱・正解主義】 【脱・予定調和】 【脱・教師主導】



戸田市立新曽小学校

◇埼玉県の基本理念

豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育

◇戸田市の基本理念

生き生きと 共に育む教育のまち 戸田 ～とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を～

1 校訓

「あかるく かしこく たくましく」

2 学校教育目標

「夢をえがき 計画をたて 行動する 児童の育成」

【学校教育目標の達成状況を評価するための児童の姿】

- ・ なりたい自分のイメージをゴールに設定することができる。
- ・ 自分のよさや可能性を認識することができる。
- ・ 自分で決めたことをやり抜くことができる。
- ・ 自分の考えをもつことができる。
- ・ いろいろな人の考えを理解することができる。
- ・ 互いの考えを尊重しながら話し合うことができる。
- ・ いろいろな考えを組み合わせ、新しい考えを創ることができる。
- ・ みんなの納得解をあきらめずに創り出すことができる。

3 学校経営方針

少子高齢化や人口減少による生産年齢人口比率の低下、地方の過疎化、気候変動や環境問題への対応などのさまざまな課題について、先端技術を活用することで社会的課題を解決し経済も発展させていく「人間中心の社会」の姿として、「超スマート社会(Society5.0)」が提唱されている。

また、技術の急速な進化、世界中の国々の結び付きの深まり、社会や経済の構造の複雑化、自然環境の変動などの要因が絡み合うことで、未来を正確に予測することが困難な時代ともなっている。

このような中での学校の役割とは、子供たち一人一人が思い描く幸せを実現できるよう、「自ら課題を見つけ、自ら考え判断し行動できる能力」を身に付けることができる場となることである。

そこで、新曾小学校では、子供たちが、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」、好奇心、やり抜く力、自制心などの「非認知能力」を身に付けることができる教育課程を編成し、校種や学校間、教科等を横断したカリキュラム・マネジメントを推進し、「子供が主語となる学び」を実現していく。そして、子供たちが、「何のために学ぶのか」という学習の意義を理解し、社会とのつながりの中で、自らの人生や社会を自分でよりよく変えられると実

感できる場となることをめざす。

そのために、新曾小学校全教職員一丸となって、未来を志向した創意ある教育活動を推進するべく、子供の実態を踏まえた学校課題の設定と、課題解決のための教育課程を意図的・計画的にマネジメントするとともに、各教科等の本質を捉えた楽しい授業を行うための教材研究に取り組み、真摯に授業改善をくり返すことで、学校教育目標の具現化に努める。

- ・児童にあっては「新曾小で学んでよかった」
- ・保護者にあっては「新曾小に通わせてよかった」
- ・教職員にあっては「新曾小で勤務ができてよかった」
- ・地域社会にあっては「新曾小を誇りに思う」

と日々実感でき、学校・保護者・地域が深い「絆」で結ばれた、地域とともにある「子供が主語の学校づくり」を推進することで、保護者・地域住民の期待や信頼に応える学校とする。

4 めざす学校像・児童像・教師像

(1) めざす学校像

「やる気と優しさが響き合い、地域とともに、共生社会で活躍できる人材を育成する学校」

- ①教師と児童、児童相互、教師相互の信頼を重視した温かな学校
 - ②児童が個性や能力を生かし、粘り強くやり抜く意志と態度を身に付ける学校
 - ③児童が学びを自己実現や社会の一員としての活動に生かす力を身に付ける学校
 - ④生活科・みらい学習科を核とした教科等を横断したカリキュラム・マネジメントを通して、児童が教科のつづ感をもちSTEAM的思考を身に付ける学校
 - ⑤各教科等の本質を捉えた楽しい授業を通して、児童が考える楽しさを味わいながら学力の3要素をバランスよく身に付ける学校
 - ⑥豊かな体験、多様な人々と関わる経験を通して、児童が思いやりや寛容さを身に付ける学校
 - ⑦安全で安心できる教育環境を整備し、児童が危機回避能力を高める学校
 - ⑧学校と家庭、地域の情報が行き交う地域とともにある学校
- ※STEAM的思考とは、異なる分野の知識やスキルを統合し、創造性や問題解決能力を伸ばすための思考の枠組みのこととする。

(2) めざす児童像

「自分がやりたいことを自分で見つけて自分でどんどん挑戦する児童」

- ①自分のよさや可能性を認識することができる児童
- ②自分で決めたことをやり抜くことができる児童
- ③自分の考えをもち、多様な考えを理解することができる児童
- ④互いの考えを尊重しながら話し合い、新しい考えを創ることができる児童
- ⑤正解のない問いの納得解を協働してあきらめずに創り出すことができる児童
- ⑥誰にでも思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすることができる児童
- ◎心身ともにたくましい児童
- ⑧自律的に判断し、責任のある行動をすることができる児童
- ⑨危険を予測し、自分の命を自分で守ることができる児童

(3) めざす教師像

「教育の成否は教師の力量・情熱、使命感に因る」

- ①教育に対する情熱と使命感をもつ教師
- ②豊かな人間性を備えた教師
- ③教育のプロとして常に研究と修養に努める教師
- ④全ての子供たちの可能性を引き出す教師
- ⑤未来社会を予測し、将来、必要となる資質・能力をアップデートし続ける教師
- ⑥各教科等の本質を捉えた確かな指導力をもつ教師
- ⑦個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現する教師
- ⑧保護者や地域の思いや願いを大切にす教師

5 基本方針

(1) 目標や課題を明確にし、創意ある授業づくり、学級づくり、生活づくりに努める。

①学習や生活の基盤づくり

教職員一人一人が学校教育目標や本年度の重点を学年・学級目標、各教科等に位置づけるとともに、児童の実態から児童が生き生きと活動する授業づくり、学年・学級づくり、生活づくりなど、規律からマナーへと軸足を移した「学習や生活の基盤づくり」に努める。

②新たな授業観の創造

知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して問題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育むため、主体的・対話的で深い学びの視点から個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 continuously 取り組む。特に各教科等における言語活動の充実を努め、各教科等の本質を捉えた楽しい授業と学習意欲を高める指導方法や評価の工夫改善に取り組む。

③創意ある教育課程の編成・実施・評価の工夫

学習指導要領の趣旨を踏まえた教科横断的なカリキュラム・マネジメントにより、児童が教科のつづ感をもちSTEAM的思考を身に付けるため、児童や学校、地域の実態に即した「社会に開かれた教育課程」の適切な編成・実施・評価に努める。全教育活動を通じて意図的・計画的に非認知能力を育成する。

④誰一人取り残されない、児童に寄り添う指導

児童一人一人の実態を把握し、個々の課題と成長に誠実に向き合い、家庭との連携を密にしながら、個別最適な学びを通して誰一人取り残されない学びの保障を実現する。

(2) 教職員の連携・協力を図り、創造的で活力ある学校運営に努める。

①修養

心と体の健康に留意するとともに、「時を守り、場を清め、礼を正す」など教育公務員としての自覚や、教師自身の人間性を高めることに努める。

②協働

組織の一員として「報告、連絡、相談、確認」を密にしながら、それぞれの役割を責任をもって果たすとともに、前任・先輩から後任・後輩へ知恵を継承する。

③創造

学校教育目標達成のため、教職員一人一人が課題をもち、前例踏襲に陥ることなく、ラディカルシンキングで自由なアイデアを生み出し、課題解決に取り組む。

④効率

より効率的な学校運営を推進するため、4プロジェクトチーム＋EBPM担当を設けるなど校務分掌組織の工夫改善に努め、教職員一人一人が「なんでもやってみよう」「まずは、やってみよう」のチャレンジ意識を持つ。

(3) 常に学び続けることで、教師としての資質・能力の向上に努める。

①学び合い

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善を進めるため、教師一人一人が自身の課題をもち、教室や授業を開かれたものとし相互に学び合うことで、教師としての資質・能力の向上に努める。

②学校課題研修

教職員一人一人が学校教育目標の実現に向けた課題を明確にもち、課題解決に向けた計画の作成と方策の実施に主体的に取り組むことで学校課題研修を充実させ、教師としての資質・能力の向上に努める。

③個人の研修課題の設定

自身の資質・能力向上のため、個人の研修課題(テーマ・内容)を設定し、自ら計画を立てて研修に取り組み、教師としての資質・能力の向上に努める。
(自己評価シートの「研修」欄を活用)

(4) 教育環境の整備・充実・美化とその有効活用に努める。

①美化

校舎内外の施設設備、掲示等の整備と美化に努め、快適な環境づくりに努める。

②安全

学校施設設備や安全組織・安全教育の不断の見直しを行い、安全で安心できる学校づくりに努める。

(5) コミュニティ・スクールによる「地域とともにある学校」づくりを推進する。

①開く

コミュニティ・スクールの趣旨を生かした取り組みを推進し、学校運営協議会で学校の経営方針や教育活動等の情報を具体的に伝えるとともに、熟議を通して学校運営の活性化や教職員の異動に影響されない学校経営の継続化を図る。また、保護者・地域からの言葉に誠実に向き合いながらコミュニケーションを図り、信頼される学校づくりに努める。

②参加

家庭・地域に教育課程を開き、教育活動への参加・協力を得る。「新曾小家庭教育宣言」の取組を通して家庭との連携を図り、基本的な生活習慣や学習習慣の確立に努める。学校・家庭・地域が連携し、共に子供を育てる「共育」の意識をもち、教育活動を展開する。

6 本年度の重点

(1) 新たな「新曾小学校の当たり前」をつくる

「教師が教える＝子供は教わる」「教師が学び方を決める＝子供は教師の指示した学び方で学ぶ」「教師が子供の学びたいことをコントロールする＝子供は教師の敷いたルールの上を歩く」「教師が問いの正解を決める＝子供は教師の正解を忖度

する」「教師が子供の時間の使い方を決める＝子供は教師の指示に従って生活する」
「教師が学校のきまりを決める＝子供は学校のきまりに従う」などの学校の当たり前を見直す。

そして、新たな「新曽小学校の当たり前」として、

- ①教師の正解を探し求める学校から子供が最適解をつくる学校
 - ②教師のルールを歩む学校から子供の試行錯誤を尊重する学校
 - ③教師主導の学校から子供自身が学びのハンドルを握る学校
- へと学校観の転換を進める。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざす授業をつくる

- ①教科横断的な学びや学校間を横断した学び、社会と連携した学びにより、児童が教科のつづ感をもちSTEAM的思考を身に付ける授業をデザインする。
- ②「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現にむけ、非同期の学びの授業をデザインする。
- ③「子供が最適解をつくる学び」「子供が試行錯誤できる学び」「子供が学びのハンドルを握る学び」による「楽しい授業」を通して、子供が学びに向かう力を身に付ける授業をデザインする。
- ④学習内容の確実な定着を図るため、1人1台学習者用端末を活用した個別最適な学びによる「わかる」授業をデザインする。
- ⑤学習や指導・評価の効率化を図るため、1人1台学習者用端末を活用しプリント教材を使用しない授業をデザインする。
- ⑥手帳アプリやGoogleカレンダーを活用することで、子供が学びの自己調整を行うことができる「子供が学びのハンドルを握る学び」をデザインする。
- ⑦落ち着いて学べる学習環境をつくるため、子供が学習マナーを身に付けることができる活動を工夫する。
 - ・時間を守る→チャイムで始まり、チャイムで終わる授業で学ぶ権利を保障
 - ・学習のマナーを守る→学ぶ心構え、姿勢、聞き方、話し方、学び合い方等

(3) 全ての児童が力を発揮できる誰一人取り残されない学びを保障する

- ①いじめの根絶や不登校児童への対応改善を組織で取り組む。全職員がカウンセリングの手法を身につけた教育相談や心の通う個別指導（子供の願いと保護者の思いを理解した対応）を心がけ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図る。
- ②学校不適應の解消のため、ぱれっとルームの活用方法について研究を進める。
- ③不登校の未然防止のため、欠席児童に対して次の対応をとる。
 - ・1日目は連絡帳や電話にて休みの様子を把握し、子供を気遣う。
 - ・2日目は電話等により、病気の回復具合や家庭での様子を把握し、学級の様子や友達が心配していることを伝え子供を気遣う
 - ・3日目は手紙や配布物等を持って家庭訪問し、病気の状況や家庭での様子を直接把握する（3日休んだら迅速に行動）
- ④不登校の未然防止のため、「新曽小家庭教育宣言」の取組による基本的な生活習慣の形成と学習習慣を確立させる。
 - ・「あいさつと返事」の徹底
 - ・「早ね・早おき・朝ごはん・歯磨き」の推進

- ・「家庭学習：学年×10分+10分運動」の推進
→手帳アプリを活用したプランニングできる力の育成
- ⑤ルールメイキングなど戸田型PBLを通して、何を、どのように学ぶのかを考え、実践できる児童の育成を目指す。
- ⑥特別活動を要としたキャリア教育を通して、児童の自己肯定感の向上を図る。

(4) 互いのよさや違いを認め合う人間関係の構築と、安心感のある学級をつくる

- ①セサミストリートカリキュラムや主権者教育、キャリア教育を通し、非認知スキルの育成とともに、資質・能力三つの柱の一つ「学びに向かう力・人間性等」を育成する。
- ②個別のニーズを的確に把握し、多層指導モデルMIMの考えを生かした授業のユニバーサルデザイン化とWAVESの活用を推進する。
- ③心に響く道徳授業と議論する道徳授業の充実を推進する。自己の生き方について考えを深める道徳授業の実践する。全学年による道徳授業公開を行う。
- ④挨拶の励行による豊かな人間関係づくりを進める。
 - ・あいさつは礼儀 「大きな声で 元気よく」
 - ・あいさつで人間関係づくり 「あいさつで 和を」
 - ・あいさつで安全な地域づくり 「あいさつの 輪を」
- ⑤清掃指導の充実を図るため、教師も児童とともに清掃する「協働」、教師による清掃の点検をする「見届け」を確実に実施する。
- ⑥ルールメイキングの取組を通して、正しい規範意識と自由の両立を意識させるため、規律ある学級づくりを進める。
 - ・生活のきまりを守る
 - ・場に応じたけじめのある言葉づかいを心がける
- ⑦食物アレルギー教育を通し、多様な特性をもつことへの理解と協働性を育成する。

(5) 文化・スポーツ・芸術にふれ、児童が夢と感動を描く機会をつくる

- ①地域の人材・施設の活用(町会、学校応援団、寺院、桜パル、荒川土手等)を進める。
- ②感動体験の場を設定するため、郷土博物館、市立図書館、キッズニアなどの校外学習やさまざまな体験的活動の充実を図る。
- ③異年齢、異学年、異校種との交流を行う。
- ④体育的な活動を充実することで、体を動かすことが好きな児童の育成を図る。

(6) 安全できれいな学校をつくる

- ①季節感あふれる掲示、子供の学習活動が見える掲示など、意図的・計画的な掲示活動を推進する。
- ②緑化活動の充実に取り組み、季節感と潤いのある環境づくりに努める。
- ③危機対応能力(子供自身が自分の命を守る力)を高めるため、新曽地区小・中学校連携による安全教育の充実を推進する。
- ④交通安全教室・自転車免許講習会を実施する。
- ⑤意図的・計画的な避難訓練(防災・防犯)、薬物乱用防止教育等を実施する。
- ⑥施設設備の定期的な安全点検の実施についてマンネリ化防止の工夫改善を行う。

(7) 服務の基本を徹底し、保護者・地域からの信頼を得る

法を守る者は、法に守られる

- ①法令・法規に基づき、教育公務員としての自覚を高め、公私の区別を厳しく行い、職務専念の義務を果たす。
- ②出勤簿の捺印、退勤時の施設・文書の保全管理等を徹底する。
- ③各種会計の適正な管理に努め、外部監査を行う。
- ④年休届の提出、出張の報告、研修承認願・報告等遺漏なく行う。
- ⑤風通しのよい人間関係により、教職員不祥事を根絶する。
- ⑥自分ごととなる研修の積み重ねにより、教職員一人一人の遵法意識を高め、不祥事を根絶する。